

第1学年 生活科学学習指導案

に組 男子 17名 女子 17名 計 34名
指 導 者 永 野 優 希

1 単 元 みんなで あそぼう

2 単元について

(1) 単元の位置とねらい

この期の子どもたちは、学校探検の活動などを通して、学校の施設の様子や学校生活のきまりやルールが分かり、落ち着いた学校生活を送ることができるようになってきている。また、休み時間や行事などで友達とかかわり合う中で、『もっとみんなと仲良くなりたい』『体を思いっきり動かして遊びたい』という思いや願いをもつようになってきている。

そこで、本単元では、水や砂を使った遊びや公園遊びなどの活動に、主体的・能動的に取り組ませる中で、『みんなと一緒に楽しく遊びたい』という思いや願いを達成していく楽しさを味わわせながら、自分の活動を連続・発展させようとする意欲を高める。同時に、これまでの経験を基に、諸感覚を使いながら自分なりに遊びを工夫したり、気付いたことを表現したりする力を培う。また、校内や公園内での遊び方に気付き、道具や公共施設の適切な使い方、準備や後始末の仕方などの習慣・技能を身に付けることができるようにする。さらには、これらの活動を通して、自分のよさや成長に気付き、自分たちの遊びをさらによりよくしていこうとする態度を培うこともねらっている。

なお、これらの活動は、『もっと生き物と仲良くなりたい』『生き物のお世話をしてみたい』という願いとして、「いきものとなかよし」の活動へと発展するものである。

(2) 指導の基本的な立場

遊びは、友達との間でそれぞれの考えややりたいことを出し合いながら、自分らしさを表現できるものである。また、思考と行動が未分化なこの時期の子どもたちにとって、身体全体を使って活動できる遊びは、諸感覚を使うことができ、自ら考え、判断し、行動する基盤となる力を培うことにつながる有効な方法であり、内容である。さらに、遊びを通して、充足感と何かをやったという達成感を味わうことができるものである。水や砂は、自由に形を変えることができ、自分が思ったものを表現したり、作り直したりできる可塑性をもち、この期の子どもが没頭でき、その子なりの試行錯誤が生まれる素材である。公園は、遊び場としての遊具や利用する人々、施設、草花、生き物など、子どもを取り巻く環境の縮図であり、そこでの遊びを通して多くの学びが生まれる場所である。したがって、水や砂、公園といった身近なもので遊ぶ活動は、友達と一緒に遊ぶ楽しさを十分に味わい、自分なりに試行錯誤しながら新たな遊びを見出すことができるものである。

そこで、本単元の展開に当たってはこのような身近なものを対象にした遊びに主体的に取り組み、活動で得た気付きを広げたり深めたりしながら、自分と対象とのつながりを実感することができるようにするために、**体全体を使って対象のよさや面白さを感じることができる活動の設定と、試行錯誤や交流活動を生み出す場づくりを重点化していきたい。**

具体的には、まず、「みずであそぼう」の活動で、水鉄砲やしゃぼん玉で遊ぶ活動を設定したい。その際、『水で遊ぶと楽しい』『友達と楽しく遊びたい』という思いや願いをもつことができるようにするために、水鉄砲で遠くまで水を飛ばす競争をしたり、様々な大きさのしゃぼん玉を飛ばして遊んだりするなど、**体全体を使って楽しく遊ぶ活動を設定したい。**次に、水遊びの活動で高まった思いや願いを基に、「すなばであそぼう」の活動へと展開し、砂で遊ぶ活動を設定したい。その際、『友達と砂場で楽しく遊びたい』という思いや願いを連続・発展させるために、**個々の思いや願いを共有させ、共通の思いや願いをもった子ども同士でのグループを作り、共有された思いや気付きを可視化し、新たな活動を見出す交流活動を設定したい。**そして、活動場所を学校から地域へと広げ、「こうえんであそぼう」の活動へと発展する。公園遊びでは、『公園で友達と仲良く遊びたい』という思いや願いを連続・発展させるために、公園で遊ぶ活動を繰り返し設定していきたい。その

際、公園で遊ぶ活動の前後に次の活動を見出すための交流活動を設定していきたい。最後に、夏休み前に「もうすぐなつやすみ」の活動を設定し、これまでの学習を振り返り、家庭や地域の生活への意欲を高めながらめあてをもった生活ができるようにするために、夏休みの計画について話し合わせていきたい。

このような活動を通して、子どもたちは、身近な自然や人々を自分とのつながりで捉えながら、活動に対する成就感や満足感を味わうとともに、自分のよさや成長を実感し、自分にとって楽しく豊かな遊びや生活を創り出していこうとする態度を高めることができる。このような学習を積み重ねることで、身近な自然への認識を深めたり、生活上必要な習慣・技能を身に付けたりしながら、自分のよさや可能性を実感し、自信と意欲をもって主体的に学んだり生活しようとしたりしていく。

(3) 子どもの実態(対象者 に組 34名 数値は延べ人数)

| | |
|--|---|
| <p><水遊びの経験> ・ある…34名 ・ない…0名 <これまでに経験した水遊び> ・プールでの水遊び…34名 ・しゃぼん玉…30名 ・水鉄砲…24名 ・色水…20名 ・水風船…12名 <砂遊びの経験> ・ある…34名 ・ない…0名 <砂で作った物>(複数回答) ・山…32名 ・川…30名 ・トンネル…18名 ・お団子…16名 ・お城…15名 ・穴…8名 <水や砂で遊ぶときに気を付けること>(複数回答) ・友達に水や砂をかけない…28名 ・仲良く遊ぶ…25名 ・順番や約束を守る…15名 ・片付け…8名 <公園遊びの経験> ・ある…34名 ・ない…0名 <公園遊びで気を付けること>(複数回答) ・仲良く遊ぶ…30名 ・順番を守って使う…26名 ・危ない遊びをしない…9名 ・分からない…2名</p> | <p>本学級の全ての子どもが、水や砂での遊びの経験をもっている。また、その遊びの内容も多様である。色水を作ったり、山や川、お団子などを作ったりするなど、様々な物に見立てて遊んで遊ぶ経験があるが、それらは単体であるものが多い。そこで、互いの作品をつなげたり、合わせたりする活動を取り入れ、友達と協力することで新たな物を生み出せることに気付かせていく必要がある。また、片付けの必要性や仕方について、具体的に指導していく必要がある。</p> <p>公園遊びは、全ての子どもが経験している。</p> |
|--|---|

そこで、これまでの経験を生かしながら、楽しく遊ぶための遊び方の工夫について考えさせていくとともに、公共物や公共施設の適切な使い方や安全面について考えさせていく必要がある。

遊び方については、これまでに様々な遊びを経験している。そこで、これまでの経験を生かしながら、どうしたら友達ともっと楽しく遊ぶことができるか思いや願いと関連付けさせながら話し合わせたり、教師が子どもと一緒に遊ぶ中で新しい遊びを紹介し、それを基に自分たちなりに遊びを工夫したりすることができるようにしていく必要がある。活動中は、教師が積極的に子どもの遊びの中に入り、タイミングを見て、具体的に指導していくようにする。なお、この時期は幼児期の自己中心性が残っており、活動中は些細なことでトラブルが起きることが予想される。教師は、けんかも成長するための学びの過程だと捉え、双方の考えを十分聞いて共感した上で、次からどのように行動したり、発言したりしたらいいか考えられるように励ますようにする。

(4) 指導上の留意点

ア 「みずであそぼう」の活動では、『水で遊ぶと楽しい』『友達と一緒に楽しく遊びたい』という思いや願いを高めるために、水鉄砲やしゃぼん玉で自由に遊ぶ活動を設定したい。その際、友達との比較から共通点や差異点を見いだしたり、その気づきを基に工夫したりすることができるようにするために、飛ばす距離を競うなどの競争する活動が生まれる場や道具や方法を工夫するなど試行錯誤することが生まれる場の設定を行っていきたい。また、「どうして楽しく遊べたのかな。」と問いかけ、身近な自然物である水を使って遊ぶ面白さや友達と一緒に遊ぶよさに気付かせていきたい。

イ 「すなばであそぼう」の活動では、子どもが活動にじっくりと取り組み、諸感覚を使って、試行錯誤しながら活動できるように、図画工作科の「ようこそすなのくにへ」と合科的に扱い、砂や土を使ってたっぷり遊べる時間を設定したい。また、砂への気づきやこれまでの砂遊びの経験を生かし、活動の内容を発展させていくために、互いの作品をつなげたり、何かに見立てたりする活動を取り入れていきたい。そして、そこから湧き出る『友達と協力してもっと楽しいものを

作りたい』という思いや願いから、共通の思いや願いをもった子ども同士でのグループをつくり、それまでの活動の様子や作品の写真、気付きを書いたカードなどを板書の中に取り入れ、それらを基にした交流活動を展開していきたい。さらに、「こんなに楽しい遊び場が作れたのはどうしてかな。」と問いかけ、友達と同じ目的をもち協力して活動するよさに気付かせていきたい。

ウ 「こうえんであそぼう」の活動では、友達とのかかわり合いを深め、公園の利用の仕方に気付いたり、新たな遊びを見出したりすることができるようにするために、繰り返し公園に出かける活動の前後に、できたことやもっとやりたいことを伝え合う交流活動を設定していきたい。その際、公園内や公園までの経路のマップに、気付いたことを書いたカードを貼り付ける活動を設定し、どんな場所で、どんなことに気を付ければよいか、友達との交流を通しながら考えさせていきたい。また、「どうしたらもっとおもしろくなるかな。」と問いかけ、遊びの約束やルールを変えることで、新たな遊びが生まれることに気付かせていきたい。

エ 「もうすぐなつやすみ」の活動では、めあてをもって夏休みを送ることができるようにするために、これまでの学習で分かったことやできるようになったことを振り返らせ、夏休みも継続してできることはないかを交流活動を通して見つけることができるようにしたい。

3 目 標

- (1) 『もっとみんなと仲良くなりたい』『思い切り体を動かして友達と遊びたい』という思いや願いを基に、水遊びや砂場遊び、公園遊びなどに進んで取り組むことができる。
- (2) これまでの遊びの経験や友達との交流を基に、試行錯誤しながら学校内の遊びや公園での遊びを工夫したり、友達とかかわり合ったりしながら、自分なりの遊びを見出すことができる。また、自分が思ったことや感じたことを絵や言葉などで表現することができる。
- (3) 水や砂を使った遊びや公園遊びの面白さや水や砂を使った遊び方、公園の利用の仕方などに気付くとともに、後始末や安全な歩行などの習慣・技能を身に付けることができる。また、友達と仲良くかかわることができた自分のよさに気付くことができる。

4 指導計画（全 19 時間）

| 活動する 楽しさ | 活 動 名 (思いの連続と気付きの様相) | 主 な 学 習 活 動 (時 間) | 学習形態・環境構成 教師の具体的な働きかけ |
|----------------------------|--|---|--|
| ○水や砂を使った遊びを見付ける楽しさ | ・学校で楽しく遊びたいな。 ・暑くなってきたし、外で思いきり遊びたいな。 | 校庭を散歩し、外での水遊びを楽しむ。(1) 遊び方を工夫しながら、友達と水遊びをする。 ＜本時＞(1) | <ul style="list-style-type: none"> ・『外で思いきり遊びたい』という思いや願いを高めるために、散歩の活動の中で、水鉄砲やしゃぼん玉等で自由に遊ぶ時間を設定する。 ・砂場遊びへの意欲を高めるために、砂場へ散歩に出かけ、砂場での自由遊びの活動の時間を設定する。 ・水や砂にたっぷりとかかわることができるようするために、図画工作科「ようこそすなのくにへ」の学習と科学的に扱う。 ・友達と共に活動する楽しさに気付かせるために、互いの作品をつなげたり、合わせたりする。 ・同じ思いや願いをもった子ども同士が共に活動したり交流したりすることができるようにするために、思いや願いに応じた場作りをする。 ・公園での新たな遊びを見出すために、公園遊びの活動の前後に、できたことややりたいことを互いに伝え合う交流活動を設定する。 ・公園の適切な利用の仕方に気付かせるために、遊んでいて困ったことやどんな人が利用していたか想起させ、利用の仕方を話し合わせる。 ・めあてをもって意欲的に夏休みを過ごせるようにするために、できたことや気付いたことを伝え合い、認め合う場を設定する。 |
| ○身体いっぱい使って遊ぶことができる楽しさ | みずであそぼう (3時間) | 見つけた工夫や遊びを友達に紹介する。(1) | |
| ○水や砂の不思議さや面白さに気付く楽しさ | ・外で遊ぶと楽しいな。 ・今度は、砂場に行って遊んでみたいな。 | 自分の経験を生かしながら、思い思いに砂や土で遊ぶ。(2) 友達と協力して、砂場で楽しく遊ぶ。(2) | |
| ○友達と協力して作ることができる楽しさ | すなばであそぼう (6時間) | 雨の日の遊びを話し合い、友達と楽しく遊ぶ。(2) | |
| ○新たな遊びを見出すことができる楽しさ | ・水や砂って面白いな。 ・みんなで協力すると、もっと楽しく遊べるんだね。 | 自宅近くの公園との違いを見付けたり、自由に遊んだりする。(2) | |
| ○今後の生活について考えたり、表現したりできる楽しさ | こうえんであそぼう (9時間) | 公園での遊びの計画や約束を話し合う。(1) 計画を基に公園で友達と楽しく遊ぶ。(5) | |
| | ・公園でも仲良く遊べたよ。 ・みんなで楽しい遊びを見付けることができたよ。 | 公園の秘密を見付けたり、楽しかったことを発表したりする。(1) | |
| | ・もうすぐ夏休みだね。 ・どんなことをしようかな。 | 夏休みの生活について話し合う。(1) | |
| | もうすぐなつやすみ (1時間) | | |

5 本 時 (2/18)

(1) 目 標

『楽しく水遊びをしたいな』という思いや願いを基に、進んで水鉄砲やしゃぼん玉遊びをする中で、これまでの経験や友達との交流を生かしながら、自分なりに工夫して遊びに使うものを選んだり遊んだりするとともに、自分の取り組み方や友達と一緒に遊ぶよさに気付くことができる。

(2) 本時の展開に当たって

自分なりに工夫しながら新たな活動を見だし楽しく遊ぶことができるようにするために、思いや願いに応じて、試したり道具を選んだりする活動を繰り返し行える場づくりを行う。その際、「どうして〇〇さんとは飛び方が違うのかな。」「大きなしゃぼん玉を作りたければ、どうすればいいかな。」などと問いかけ、遊び方や道具の選び方の共通点や差異点に気付かせたり、これまでの経験と遊び方とを関連付けさせたりしながら、新たな活動を見いだすことができるようにする。

(3) 準 備

材料や道具 (水, しゃぼん液, ペットボトル, ストローなど), ラジカセ, など

(4) 展 開

| 学習過程 | 主な学習活動 | 時間 | 教師の具体的な働きかけ |
|----------|--|----------|--|
| 意欲をもつ | <p>1 前時の活動を振り返り、本時の学習について話し合う。</p> <p>・水鉄砲やしゃぼん玉で遊ぶと、すごく楽しかったな。</p> <p>・友達ともっと楽しく水遊びをしたいな。</p> <p>みんなでたのしくみずあそびをしよう。</p> | (分) 5 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 水鉄砲やしゃぼん玉遊びへの思いや願いを高めるために、前時の活動の写真を提示し、水遊びをしていた時の気持ちを振り返りながら本時の学習について話し合う。 ○ 思いや願いが共通した子ども同士で活動できるようにするために、遊びの種類ごとに活動できる場を設定する。 |
| 活動する | <p>2 自分なりに工夫しながら水鉄砲やしゃぼん玉で遊ぶ。</p> <p>思いや願い</p> <p>・みんなで楽しく遊びたいな。</p> <p>・遠くまで水を飛ばし、大きなしゃぼん玉を作りたいたいな。</p> <p>試行錯誤する活動</p> <p>道具を選ぶ ↔ 試す・遊ぶ</p> <p>友達との比較 これまでの経験</p> <p>どうして、飛び方が違うのかな。穴の大きさの違う水鉄砲で比べてみよう。</p> <p>小さい穴 ↔ 大きい穴</p> <p>穴が小さいと、遠くまで飛んだよ。</p> <p>大きくするには、どうすればいいかな。</p> <p>息の出し方で、しゃぼん玉の大きさが違う。</p> <p>大きくするには、ゆっくり吐き出すといいね。</p> <p>・小さい穴の水鉄砲で飛ばして遊ぼう。</p> <p>・ゆっくり息を吐き出してみよう。</p> <p>新たに見いだした活動</p> | 33 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 材料や道具を選んだり試したりすることを繰り返しながら活動することができるようにするために、遊ぶ場と選ぶ場を自由に行き来できるようにする。 ○ 友達との交流やこれまでの経験を生かして新たな活動を見いだすことができるようにするために、「どうして飛び方が違うのかな。」と問いかけ、遊び方や道具の選び方を比較させたり、「～するには、どうすればいいかな。」と問いかけ、これまでの経験と遊び方を関連付けて考えたりすることができるようにする。 <p>○個への対応</p> <p>(1) 進んで工夫しながら遊んでいる子ども</p> <p>遊び方の工夫など取り組み方のよさを価値付けるとともに、周囲に紹介するなどして、そのよさを広げるようにする。</p> <p>(2) 友達とかかわりが少ない子ども</p> <p>競争を促す問いかけをしたり、同じ遊びをしている友達を紹介したりして、かかわりが生まれるよう支援する。</p> <p>(3) 活動に戸惑っている子ども</p> <p>戸惑っている原因を探るとともに、教師が共に活動したり、友達とかかわらせたりして、自ら活動できるよう支援する。</p> |
| 振り返る・生かす | <p>3 道具の後始末をする。</p> <p>4 本時の学習を振り返り、できたことやこれからしたいことを伝え合う。</p> <p>・友達と一緒に遊んだらすごく楽しかったよ。</p> <p>・大きなしゃぼん玉の作り方を、みんなに教えてあげたいな。</p> <p>・もっといろいろな友達とどこまで飛ぶか競争してみたいな。</p> | 7 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の取り組み方のよさや友達と一緒に遊ぶよさに気付かせるために、「どうして、楽しく水遊びをすることができたのかな。」と問いかける。 ○ 友達と協力して取り組んだことへの成就感を味わわせるとともに次の活動への意欲を高めるために、できたことや次にしたいことなどを発表させ、意味付けたり価値付けたりする。 |